

NINJALシンポジウム

「係り結びと格の通方言的・通時的研究」

2020年9月20日(日)

有標主格性と 情報構造

下地理則

(九州大学/NINJAL)

以下の支援を受けています



基盤研究 (S) (代表: 狩俣繁久)
言語系統樹を用いた琉球語の比較・歴史言語学的研究 17H06115



基盤研究 (B) (代表: 下地理則)
日琉諸語の有標主格性に関する基礎的研究 19H01255



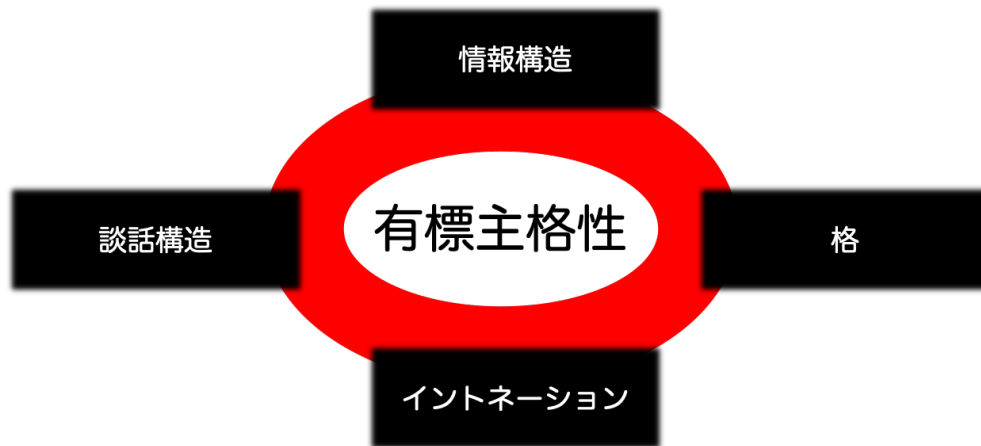
基盤研究 (B) (代表: Narrog Heiko)
日本語と近隣言語における文法化の基礎的研究 16H03411



本発表の目的：進行中の科研（2019~）の紹介

MarkedNOM

日琉諸語の有標主格性に関する基礎的研究
(科研費基盤B 19H01255, 代表：下地理則)



メンバー	担当地域
大槻知世（静岡英和学院大）	青森（津軽）
日高水穂（関西大）	秋田
白岩広行（立正大）	福島
平子達也（南山大）	愛知，出雲
小西いずみ（東京大）	富山，広島
野間純平（島根大）	出雲，大阪， etc.
平塚雄亮（中京大）	甕島，福岡， etc.
久保蘭愛（愛知県立大）	鹿児島（市）
原田走一郎（長崎大）	【琉】八重山，長崎
下地理則（九州大/NINJAL）	【琉】全般，椎葉，青森

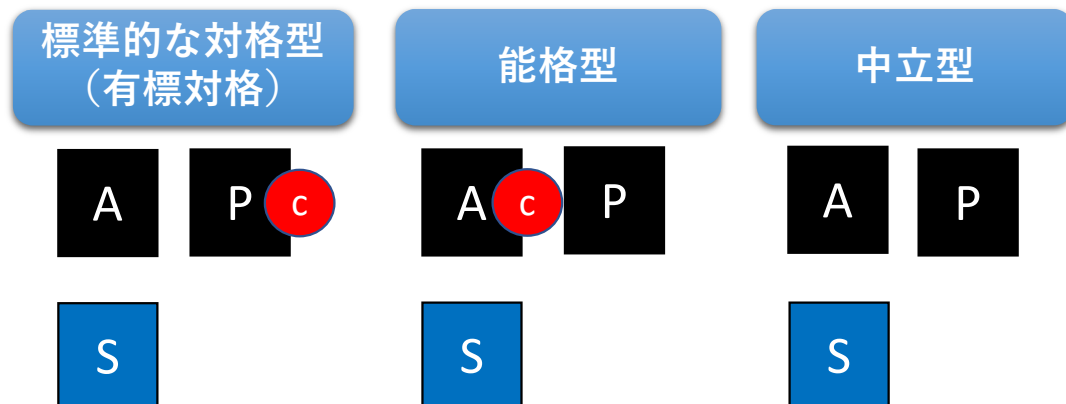
有標主格性とは

格標示に関する最もよく知られたモデル： AP識別モデル（相互識別モデル）

Comrie (1978), Dixon (1979), Aissen (2003), de Hoop and Malchukov (2008), etc.

「格標示は、AとPの相互識別のためにある。」

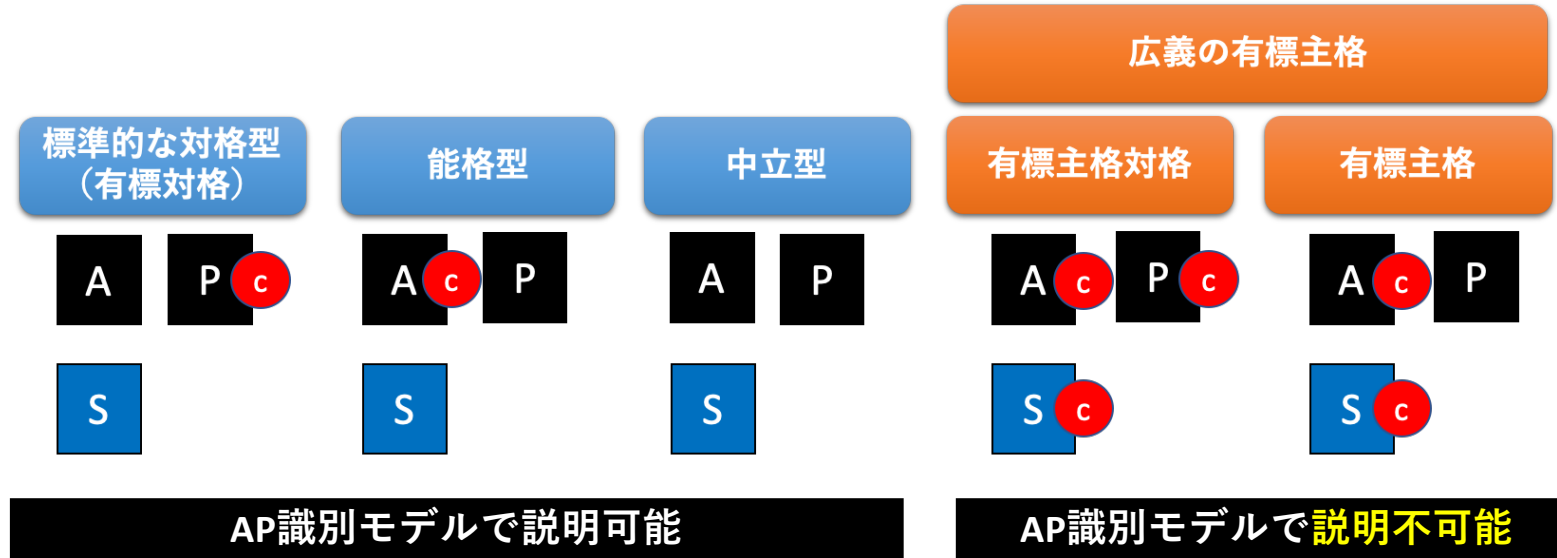
「よって、Sへの格標示はどの配列パターンでも排除される。」



A: 他動詞文の主語
P: 他動詞文の直接目的語
S: 自動詞文の主語

有標主格 (Marked Nominative)

- 有標主格 (Dixon 1979, König 2006, Handschuh 2008, 2014)
 - 狭義：ASが有標かつPが無標
 - 広義：ASが有標 (有標主格対格も含む)

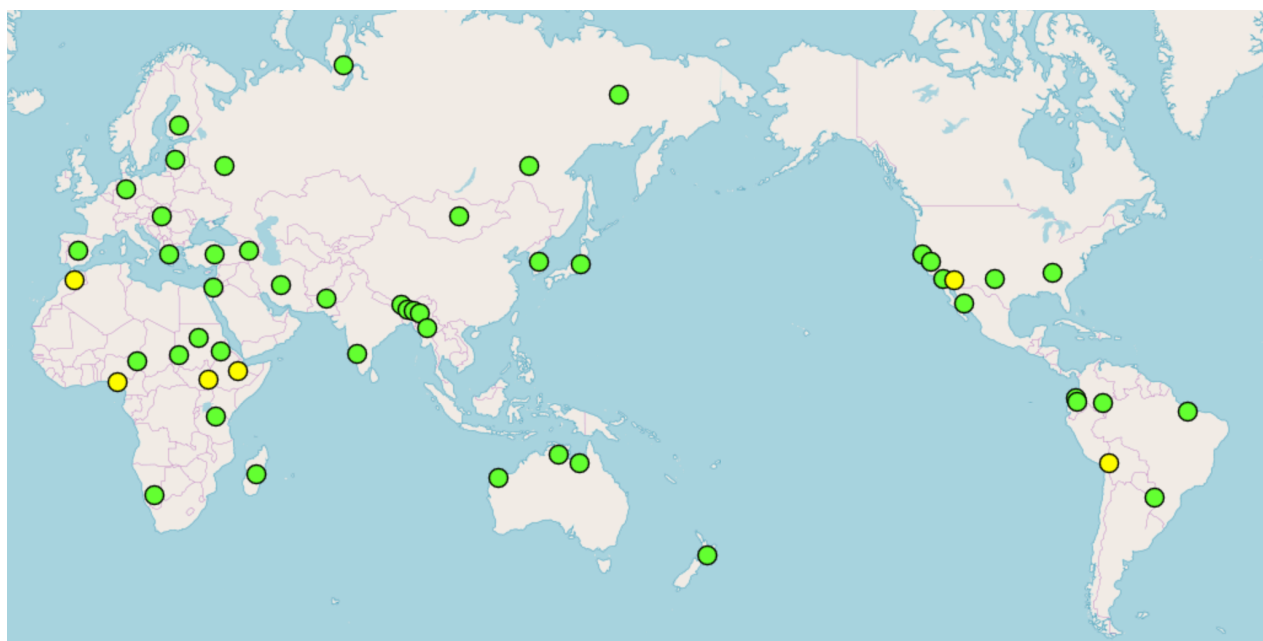


対格言語の圧倒的多数は有標対格 AP識別モデルには一定の妥当性あり

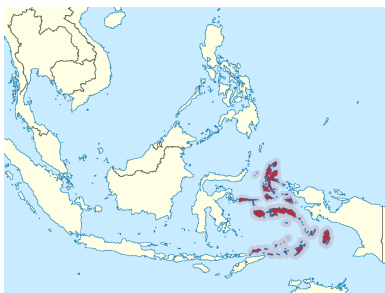
対格型
52言語

有標対格
46言語

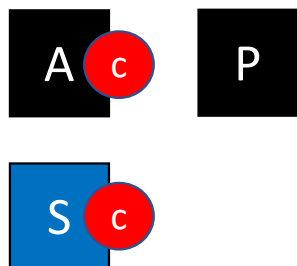
有標主格
6言語



WALS Online Feature 98A (<https://wals.info/feature/98A#2/26.7/149.6>)
Alignment of Case Marking of Full Noun Phrases



狭義の有標主格パターンの例：
Oirata (Timor; Donohue & Brown 1999: 66)



(1) **in-te** **ee** **asi**
1PL.EXCL-NOM 2SG.POL 見た
「俺たちはあなたを見た。」

(2) **an-te** **ete** **na'a** **ippa**
1SG-NOM 木 から 落ちた
「俺は木から落ちた。」



狭義の有標主格パターンの例： Jamul Tiipay (Yuman; Miller 2001)

A c P

S c

(3) **Juan-ch** **uusha.**

ホアン-NOM 刺した

「ホアンが（彼を）刺した。」

(4) **peya-ch** **we-nall-xa.**

この人-NOM 3-落ちる-IRR-EMPH

「この人が落ちた。」



狭義の有標主格パターンの例： Tennet (Surmic; Randal 1998)

A c P

S c

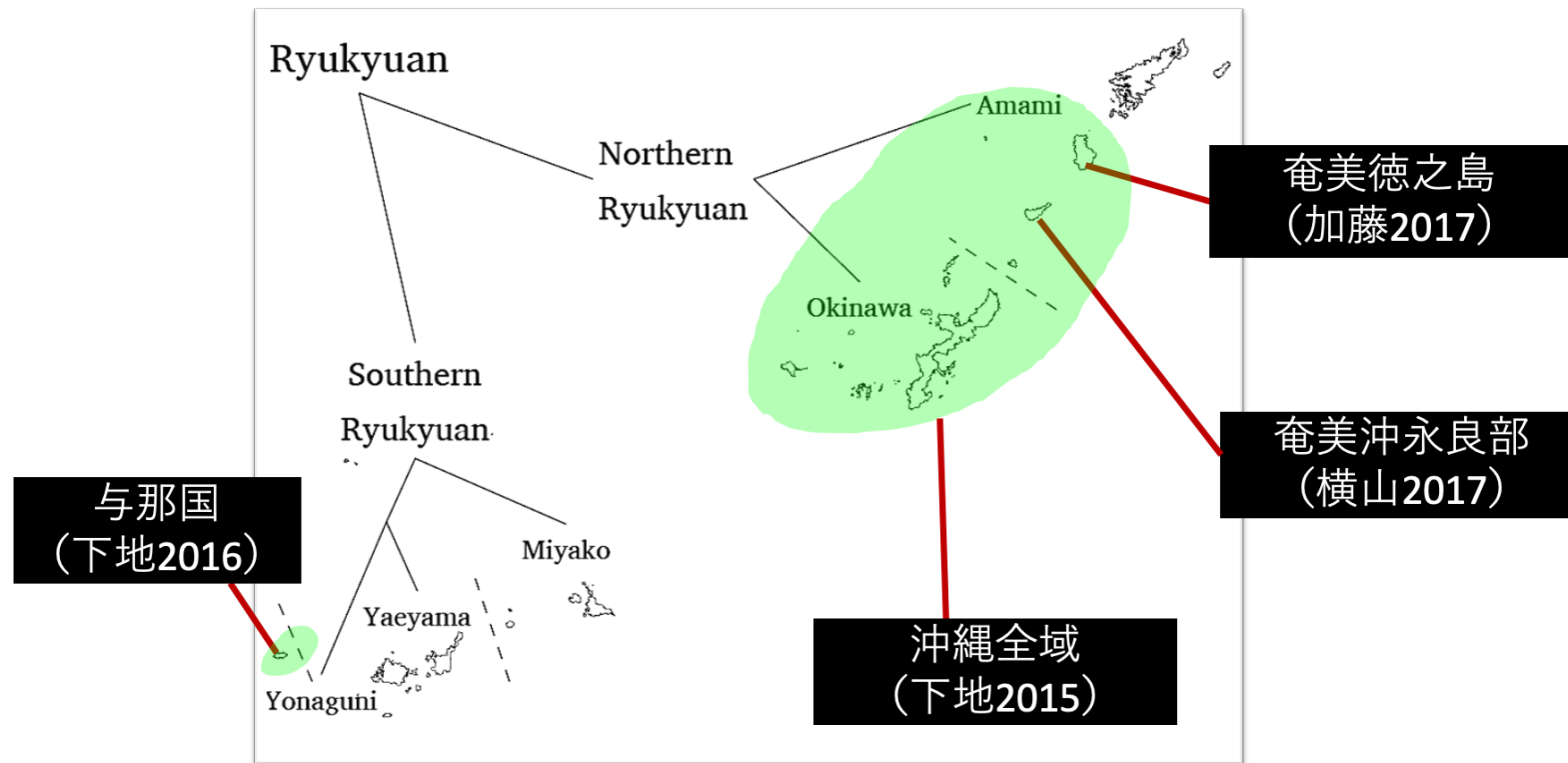
(5) **ákát** **Lowór-I** **yomá**
PFV.槍で刺す ロウォル-NOM ヨマ

「ロウォルがヨマを槍で刺した。」

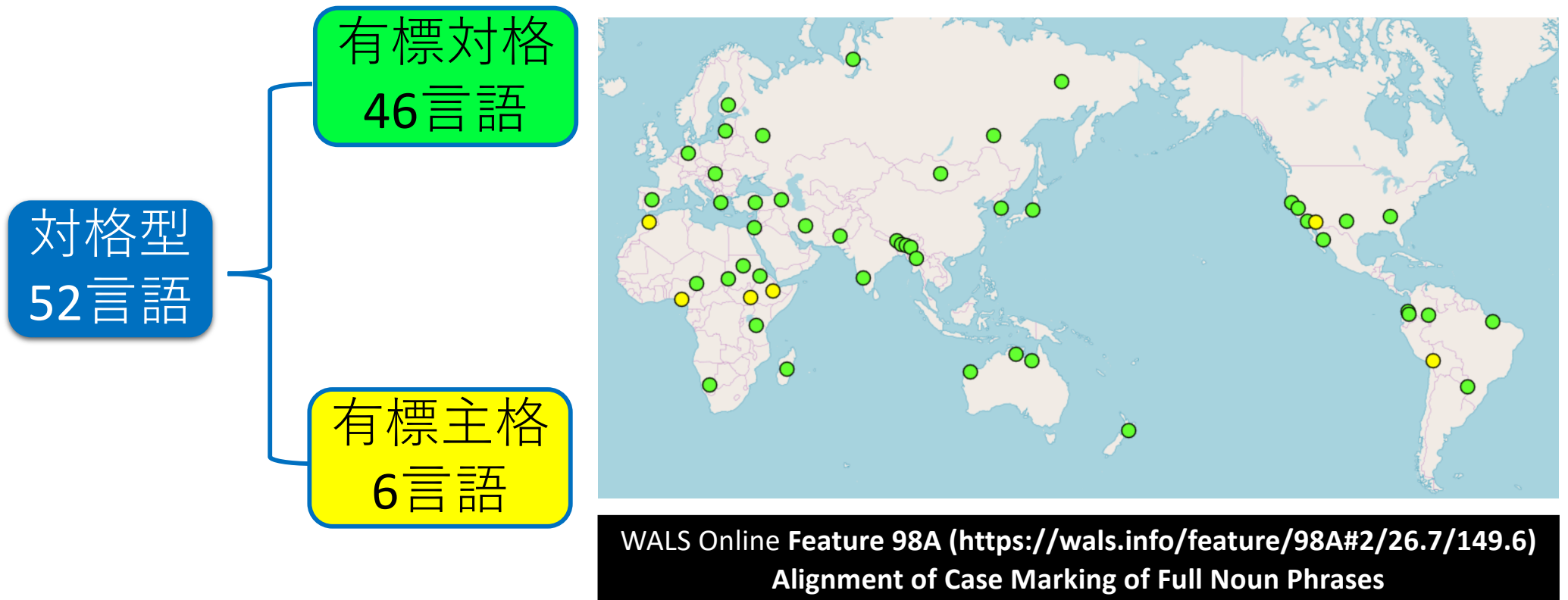
(6) **úk** **mányúdí-I** **mgínáátí**
行く.PFV リス-NOM そこ

「リスがそこへ行った。」

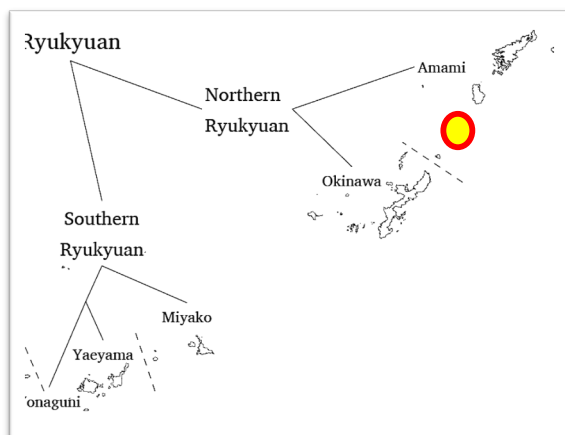
琉球諸語：狭義の有標主格の宝庫



有標主格の類型論 (Handschuh 2014) において
琉球諸語データは注目されていない (cf. Comrie 1994)



北琉球奄美語沖永良部方言（横山2017）

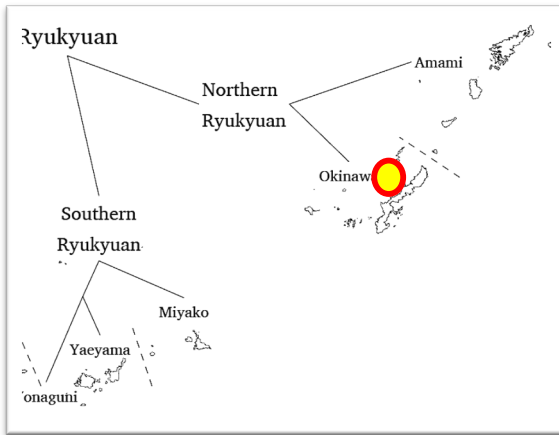


- (7) **wa=ga** **taroo** **abit-a-N.**
1SG=NOM 太郎 呼ぶ_レ-PST-IND
「俺が太郎を呼んだ。」
- (8) **fattee=cji=wa** **wa=ga** **ic-ju-N.**
畑=DIR=TOP 1SG=NOM 行く_レ-NPST-IND
「畑には俺が行く。」

横山
(2017: 270-271)

「沖永良部方言は典型的に稀な有標主格パターンを持つ。」と明記

北琉球沖縄語瀬底島方言 (内間1994)



(9) **wan=ga** **zii** **hakun**
1SG=NOM 字 書く

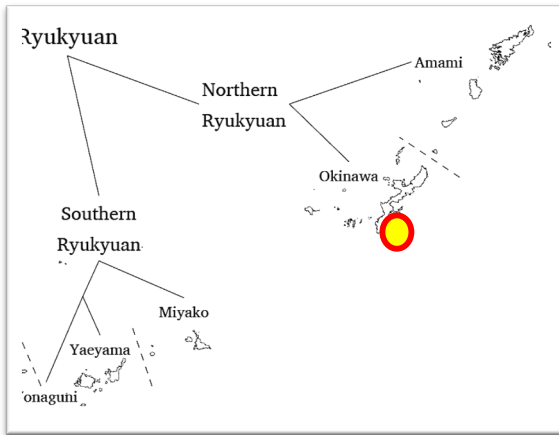
A P

「私が字を書く。」

(10) **wan=ga** **kuu=saa.**
1SG=NOM 来る=SFP

「私が行くよ (lit. 来るよ) 。」

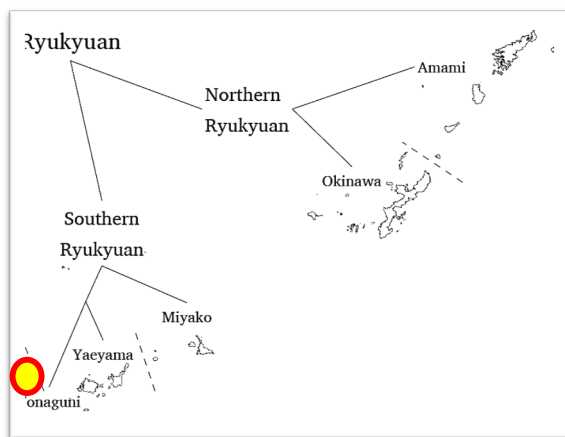
北琉球沖縄語久高島方言（新永2019，例はp.c.）



(11) **anmaa=ga** **kosikake** **jantan.**
お母さん=NOM 椅子 壊した
「お母さんが椅子を壊した。」

(12) **anmaa=ga** **nzjan.**
お母さん=NOM 行った
「お母さんが行った。」

南琉球与那国語（下地2016）



(13) **khari=nga** **anbidungu** **dandasjan.**

3SG=NOM

おもちゃ

壊した

「彼（女）がおもちゃを壊した。」

(14) **khari=nga** **khagurun.**

3SG=NOM

隠れた

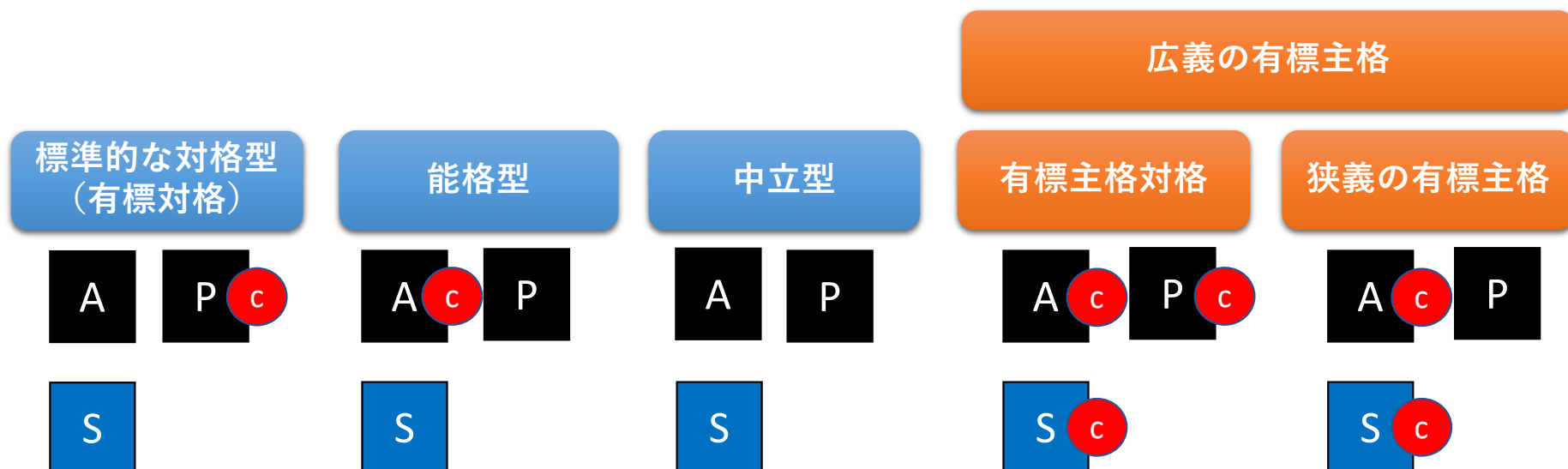
「彼（女）が隠れた。」

	代	有	無
A	G	G	G
S _A	G	G	G∅
S _P	G	G∅	∅
P	∅	∅	∅



広義の有標主格性： 琉球にも本土方言にも多数見つかる

- 有標主格
 - 狭義：ASが有標かつPが無標
 - 広義：ASが有標（Pに格標示ある有標主格対格も含む）



愛媛県大洲方言（宮岡2019）

minnasoko kuruma=~~o~~ mottettara,

みんな ところ 車 持って行く.HYP

「みんなそこに車を持って行ったら、」

de, gin=o

で, 銀=ACC

「で, 銀を持って」

motte

持つ.SEQ

	無助詞	ga	計
S	7 (6.1%)	107 (93.9%)	114
A	5 (22.7%)	17 (77.3%)	22

	無助詞	o	計
P	31 (43.7%)	40 (56.3%)	71

広義の有標主格性を示す方言の例

otoko=ga

男=NOM

kantyoo{=ba/ø}

鹿=ACC

utikoryeeta.

撃ち殺した

「男が鹿を撃ち殺した。」（宮崎県椎葉村尾前；Shimoji 2018a）

in=nu=du

犬=NOM=FOC

miz{=zu/?ø}

水=ACC

numii

飲んで

njaan.

PRF

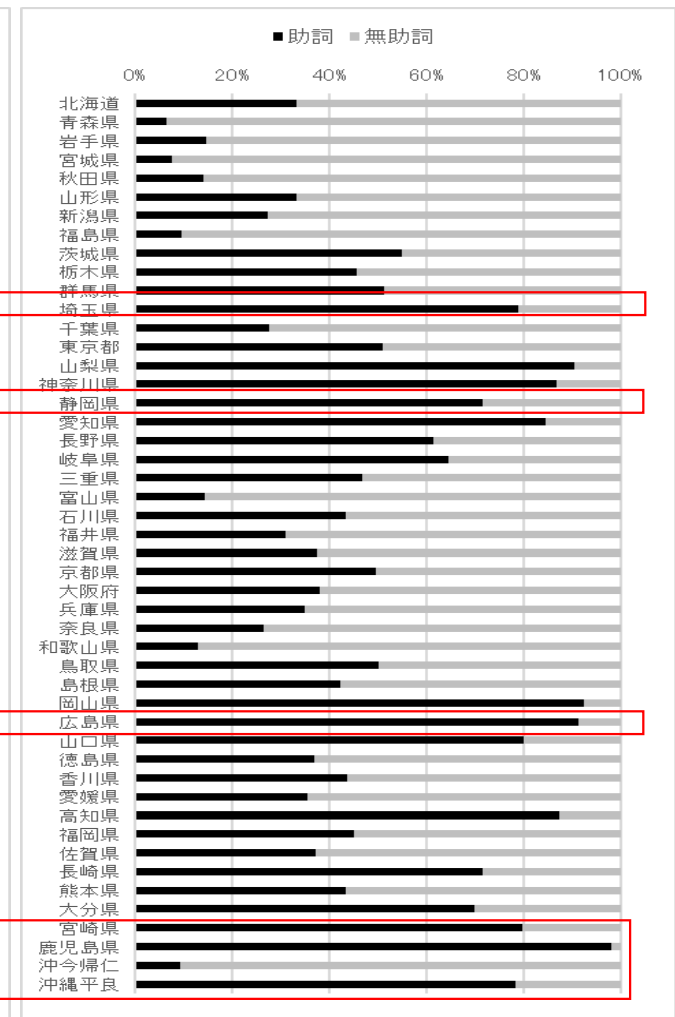
「犬が水を飲んだ。」（宮古語伊良部; Shimoji 2008）

木部(印刷中) COJADSの分析

木部・竹内・下地編
『日本語の格表現』
くろしお出版

主格 (AS)

対格 (P)



広義の有標主格

有標主格対格

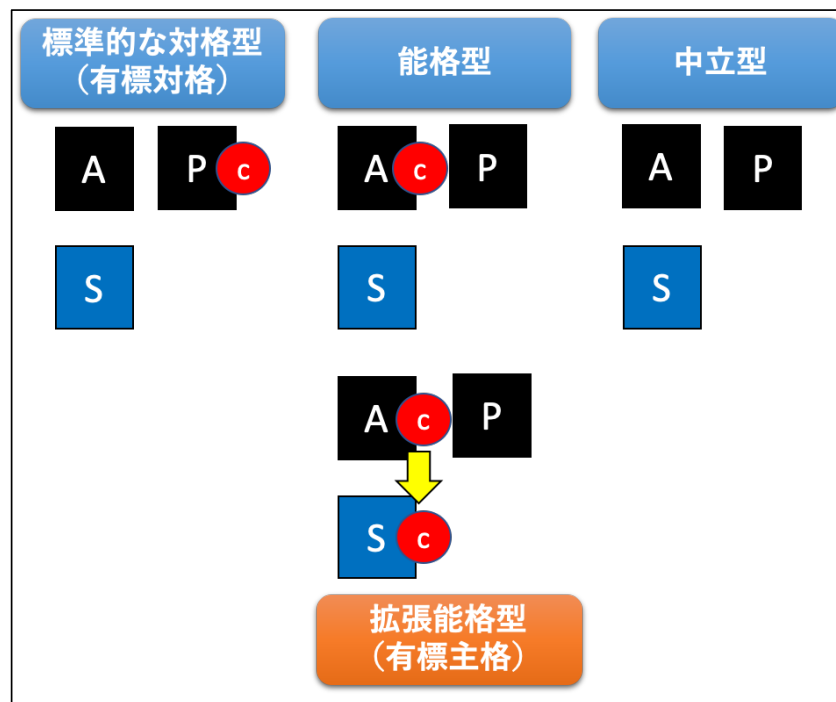
中間タイプ

狭義の有標主格



AP識別モデルからみた有標主格

- AP識別モデルで想定可能な**能格**からの**変化**だと解釈
 - Extended ergative (Dixon 1979)
- 有標主格成立の動機 (Dixon 1979) :
 - A+Sの機能的類似性から
(ざっくり「主語」ということで)
- なぜ有標主格が僅少なのか
説明できない (Handschuh 2014: 14)
- 広義の有標主格パターンは
説明不可能



AP識別仮説を超えて：
有標主格の存立を説明する試み

脱主題化モデル（下地2019）

- 日本語（共通語口語）のガの分布に関するモデル



脱主題化モデル（下地2019）

- 日本語（共通語口語）のガの分布に関するモデル
 - 頻度を基にした聞き手の予測（デフォルト予測）
NP Pred = Topic Comment



述語焦点=デフォルト (通言語的; Zimmermann 2016) (全国方言の談話資料を使った実証も本科研のテーマ)

風間
(2015: 62)

映画シナリオ全1174文のうち744文 (63.4%) で主語項なし。



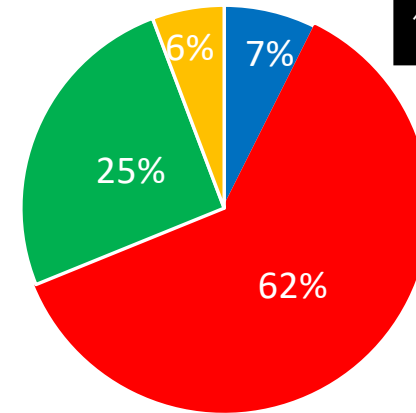
「ハによってある主題が導入されると、その主題が文を越えて機能し、その結果として**後続の文においては、主語項が無くともそれが了解される**ケースが多く存在するためであろう」



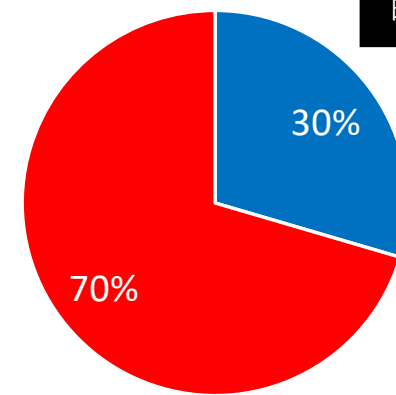
俺
朝起きて
ごはん食べて
学校行って
⋮

下地 (2019) :
 九大生の会話データ (210節)
 []は発話されない項

今日テストもあったの	SV
テスト頑張らないといけないと思って	[A]PV
テスト勉強を図書館にしに行って	[A]PV
連絡が取れない	SV
奴がいたから	SV
そいつと連絡を取るために	[A]PV
めっちゃパソコンでLINEを頑張ってる	[A]PV
ずっと勉強して	[A]PV
テスト受けたら	[A]PV
全然できなくて	[A][P]V
急いでビッグカメラに行ったら	[S]V
やっぱり交換しなさい	[A][P]V
って言われたので	[S]V
明日しようと思って	[A][P]V



■ APV ■ [A]PV ■ [AP]V ■ A[P]V



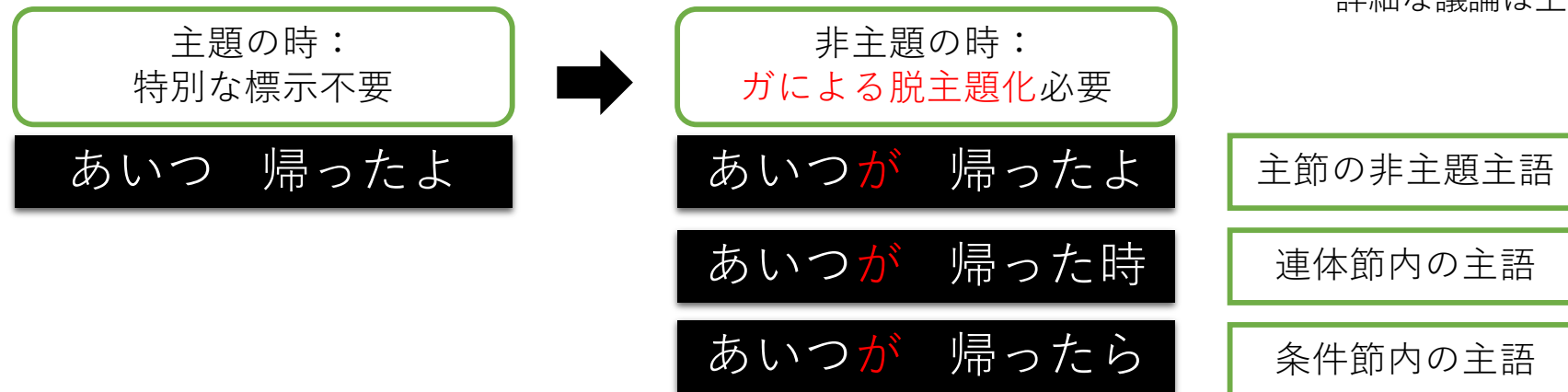
■ SV ■ [S]V

脱主題化モデル（下地2019）

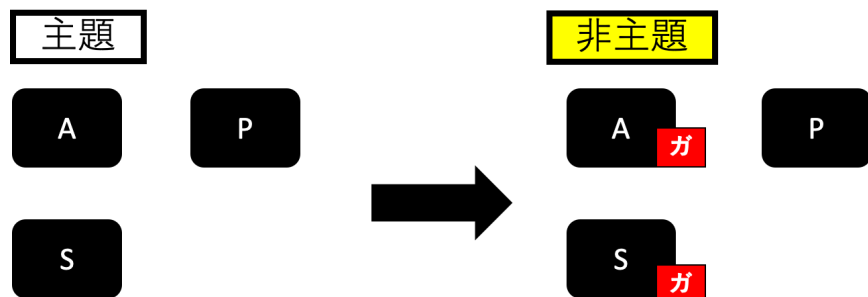
- 日本語（共通語口語）のガの分布に関するモデル
 - 頻度を基にした聞き手の予測（デフォルト予測）
NP Pred = Topic Comment
 - 主格標識ガ：
デフォルト予測からの逸脱（非主題）を標示



このモデルの実証を含めた
詳細な議論は上掲書を参照



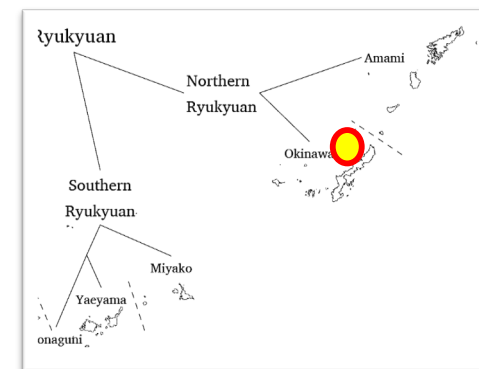
脱主題化モデル： 狭義の有標主格の存立を最もダイレクトに予測



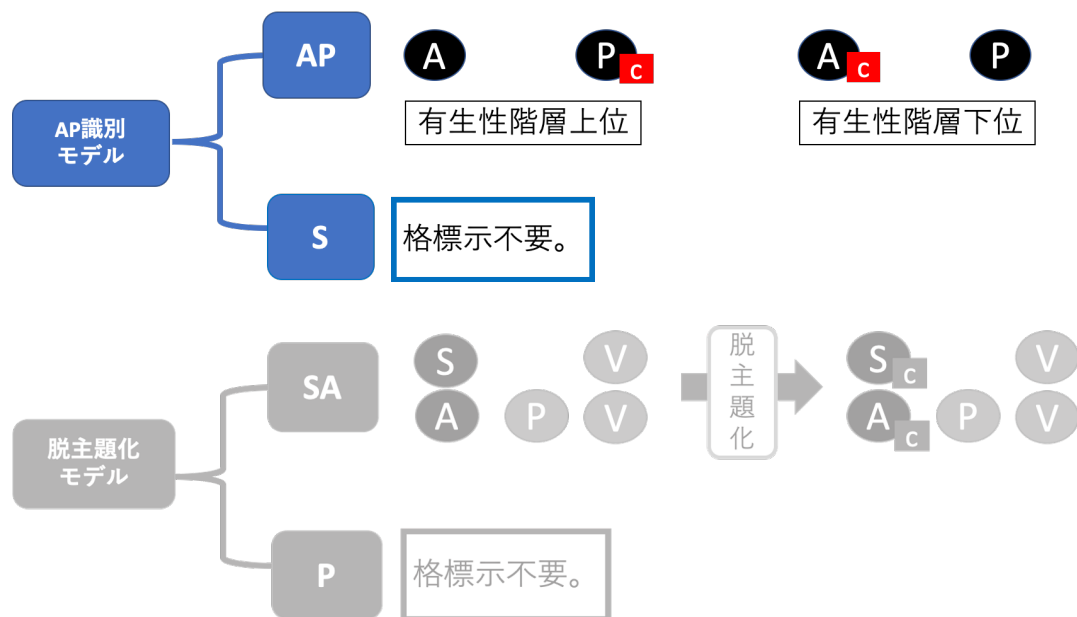
(9) **wan=ga** **zii** **hakun**
 1SG=NOM 字 書く
 A P

「私が字を書く。」（他動詞文）

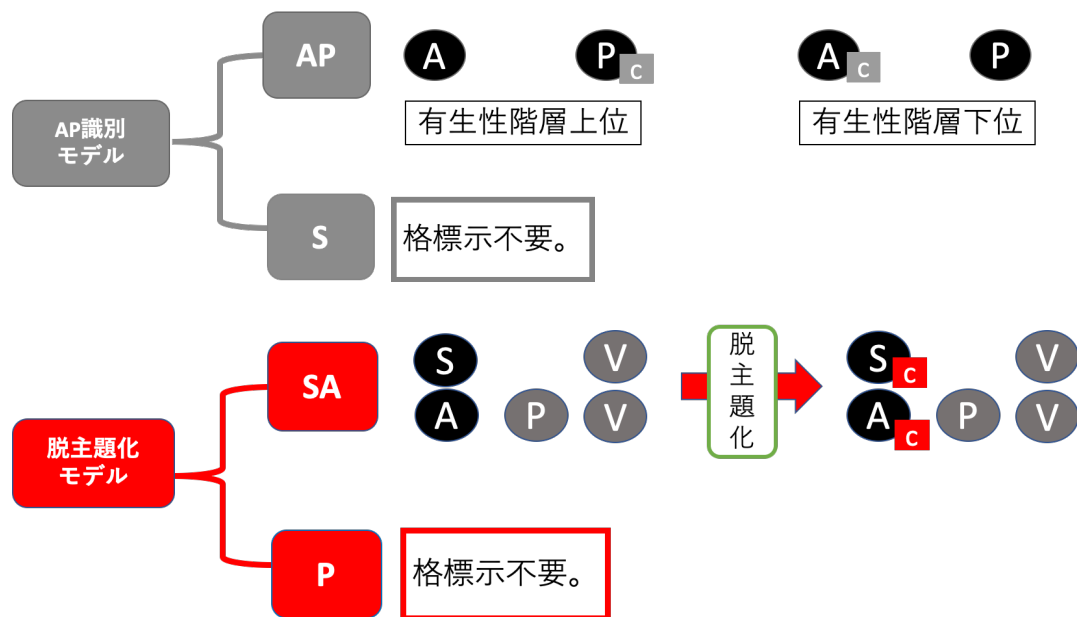
(10) **wan=ga** **kuu=saa.**
 1SG=NOM 来る=SFP
 「私が行くよ（lit. 来るよ）。」（自動詞文）



例：沖縄語瀬底島方言



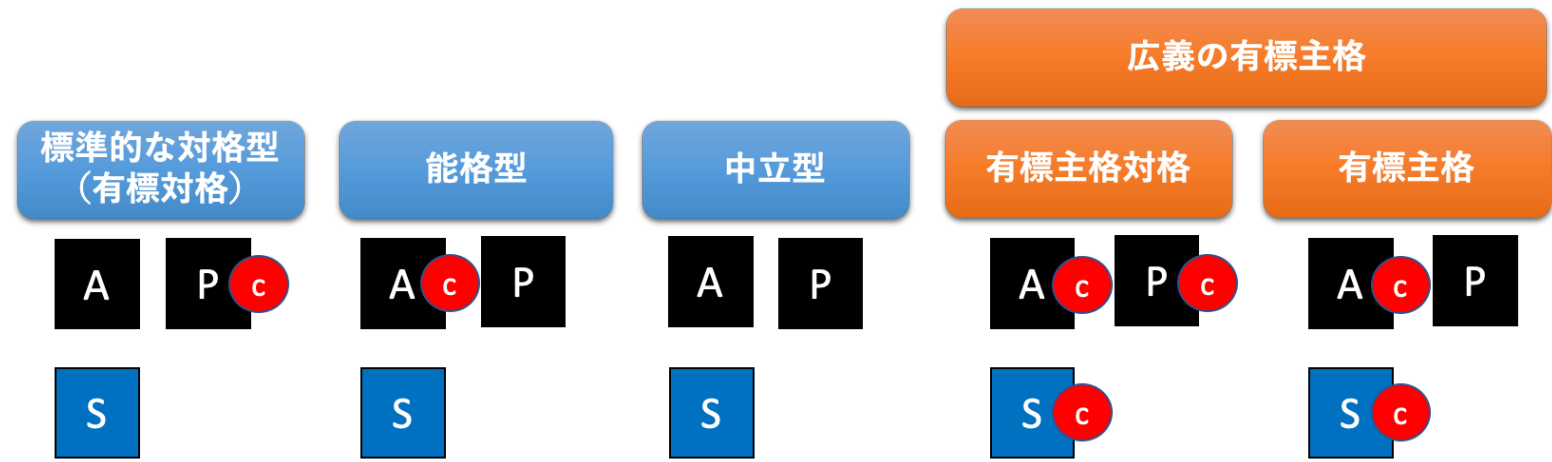
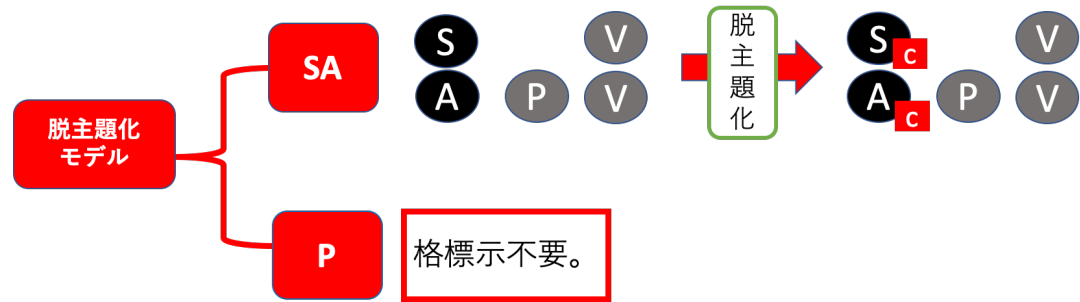
	AP識別モデル	脱主題化モデル
格標示の動機	AとPの相互識別 (統語的)	ASの脱主題化 (情報構造的)
格標示の説明対象	AP	AS
有標主格の出現	予測せず	予測する



	AP識別モデル	脱主題化モデル
格標示の動機	AとPの相互識別 (統語的)	ASの脱主題化 (情報構造的)
格標示の説明対象	AP	AS
有標主格の出現	予測せず	予測する

脱主観化モデルと Pの格標示

広義の有標主格性： 現行の脱主題化モデルではPの標示が問題に



脱主題化モデルの拡張： Pの格標示を視野に入れて

- 現状，ASの格標示のメカニズムである脱主題化モデルで，Pの格標示をどうやって説明するか：本科研の研究課題の1つ
- ASであれPであれ，その格標示について「**期待される情報構造からの逸脱**」を動機とするモデル，と拡大解釈すれば，Pの格標示の説明も可能かもしれない。以下で簡単に説明。

	典型例	動機	適したモデル
有生Pの格標示	東北	Aとの識別	AP識別モデル
V非隣接Pの格標示	全国	Aとの識別	AP識別モデル
格を使った焦点Pの標示	全国	期待される情報構造からの逸脱	【拡大】脱主題化モデル
主題Pの主題化 → 格標識へ	九州	期待される情報構造からの逸脱	【拡大】脱主題化モデル

有生性とPの標示

	典型例	動機	適したモデル
有生Pの格標示	東北	Aとの識別	AP識別モデル
V非隣接Pの格標示	全国	Aとの識別	AP識別モデル
格を使った焦点Pの標示	全国	期待される情報構造からの逸脱	【拡大】脱主題化モデル
主題Pの主題化 → 格標識へ	九州	期待される情報構造からの逸脱	【拡大】脱主題化モデル

有生性に応じたPの格標示(DOM)

以下は青森県野辺地（他にも佐々木1998, 日高2000, 竹内・松丸2019など多数）

ototto **soto** **mitera.**
弟 外 見てる

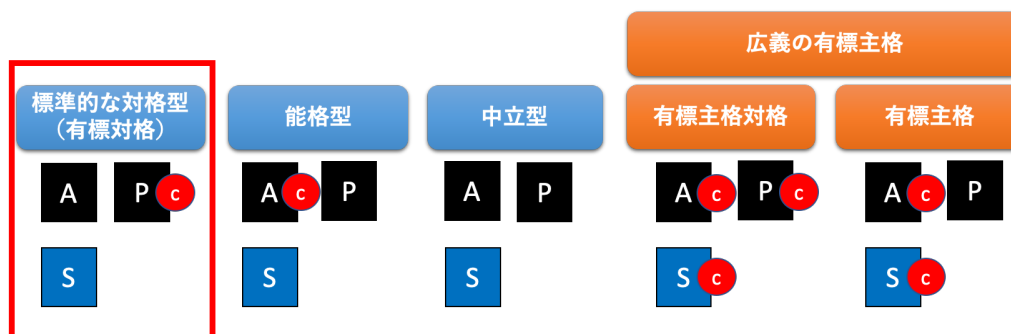
「弟が/は外を見てる。」

ototto **wa=ba** **mitera.**
弟 1SG=ACC 見てる

「弟が/は俺を見てる。」

ototto **asondera**
弟 遊んでる

「弟が/は遊んでる。」



東北・北関東方言は概して、**スタンダードな対格言語**として、AP識別モデルが適しているように見える。

隣接性とPの標示

	典型例	動機	適したモデル
有生Pの格標示	東北	Aとの識別	AP識別モデル
V非隣接Pの格標示	全国	Aとの識別	AP識別モデル
格を使った焦点Pの標示	全国	期待される情報構造からの逸脱	【拡大】脱主題化モデル
主題Pの主題化 → 格標識へ	九州	期待される情報構造からの逸脱	【拡大】脱主題化モデル

隣接性とP標示 (Tsutsui 1984, Saito 1985, 松田2000, 下地印刷中)

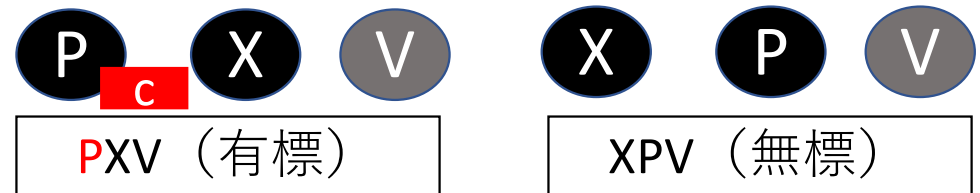
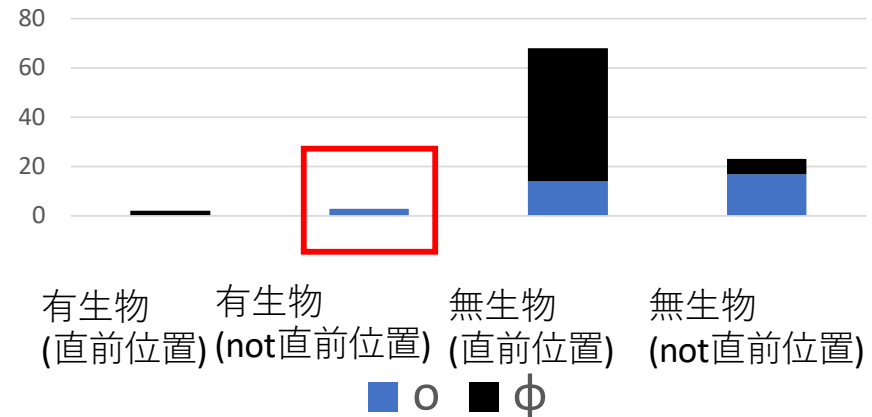
大阪 (下地・松岡2019)

		動詞隣接	
		○	×
格標示	あり	9	43
	なし	9	0

椎葉 (下地2016)

		動詞隣接	
		○	×
格標示	あり	141	45
	なし	153	6

香川 (下地・松岡2019)



福井方言（松倉2020）

内陸農村方言（池田町西角間）

(1) kúmaŋa káki kuteru
熊が 柿=ø 食ってる
‘熊が柿を食べてる’

内陸農村方言（池田町西角間）

(3) káki mmasó:ni kuteru
柿=ø うまそうに 食ってる
‘柿をうまそうに食べてる’

内陸農村方言（池田町西角間）

(5) { kákio / káki } kúmaŋa kuteru
{ 柿=才 / 柿=ø } 熊が 食ってる
‘柿を熊が食べてる’

沿岸漁村方言（坂井市三国町安島）

(2) kumaŋa { kakko / kaki } futonva
熊が { 柿=才 / 柿=ø } 食っとるわ
‘熊が柿を食べてるわ’

沿岸漁村方言（坂井市三国町安島）

(4) kakko mmaso:ni futonva
柿=才 うまそうに 食っとるわ
‘柿をうまそうに食べてるわ’

沿岸漁村方言（坂井市三国町安島）

(6) kakko kumaŋa futonva
柿=才 熊が 食っとるわ
‘柿を熊が食べてるわ’

福井方言（松倉2020）

内陸農村方言（池田町西角間）

(1) kúmaŋa káki kuteru
 熊が 柿=∅ 食ってる
 ‘熊が柿を食べてる’

内陸農村方言（池田町西角間）

(3) káki mmasó:ni kuteru
 柿=∅ うまそうに 食ってる
 ‘柿をうまそうに食べてる’

内陸農村方言（池田町西角間）

(5) { kákio / káki } kúmaŋa kuteru
 { 柿=才 / 柿=∅ } 熊が 食ってる
 ‘柿を熊が食べてる’

沿岸漁村方言（坂井市三国町安島）

(2) kumaŋa { kakko / kaki } φutonva
 熊が { 柿=才 / 柿=∅ } 食っとるわ
 ‘熊が柿を食べてるわ’

沿岸漁村方言（坂井市三国町安島）

(4) kakko mmaso:ni φutonva
 柿=才 うまそうに 食っとるわ
 ‘柿をうまそうに食べてるわ’

沿岸漁村方言（坂井市三国町安島）

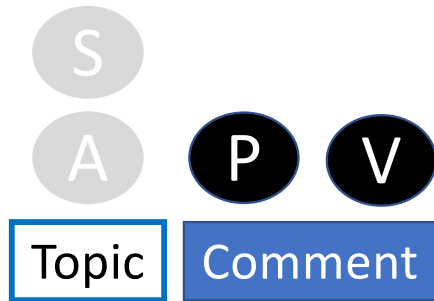
(6) kakko kumaŋa φutonva
 柿=才 熊が 食っとるわ
 ‘柿を熊が食べてるわ’

	非隣接 OSV	非隣接 OAV	隣接 SOV
内陸農村 (池田)	=才, =∅	=∅	=∅
沿岸漁村 (安島)	=才	=才	=才, =∅

焦点化とPの標示

	典型例	動機	適したモデル
有生Pの格標示	東北	Aとの識別	AP識別モデル
V非隣接Pの格標示	全国	Aとの識別	AP識別モデル
格を使った焦点Pの標示	全国	期待される情報構造からの逸脱	【拡大】脱主題化モデル
主題Pの主題化 → 格標識へ	九州	期待される情報構造からの逸脱	【拡大】脱主題化モデル

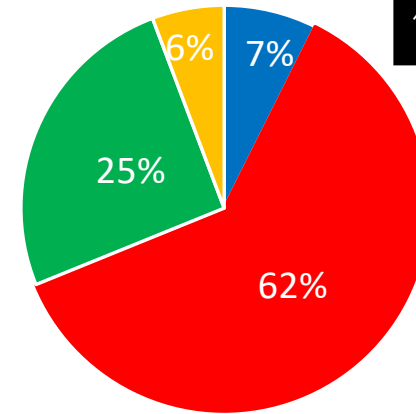
Pに対するデフォルト予測：
焦点領域内，かつ非焦点（PV全体が焦点）



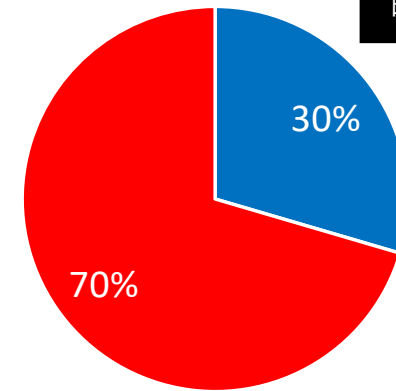
述語焦点

下地 (2019) :
 九大生の会話データ (210節)
 []は発話されない項

今日テストもあったの	SV
テスト頑張らないといけないと思って	[A]PV
テスト勉強を図書館にしに行って	[A]PV
連絡が取れない	SV
奴がいたから	SV
そいつと連絡を取るために	[A]PV
めっちゃパソコンでLINEを頑張ってる	[A]PV
ずっと勉強して	[A]PV
テスト受けたら	[A]PV
全然できなくて	[A][P]V
急いでビッグカメラに行ったら	[S]V
やっぱり交換しなさい	[A][P]V
って言われたので	[S]V
明日しようと思って	[A][P]V

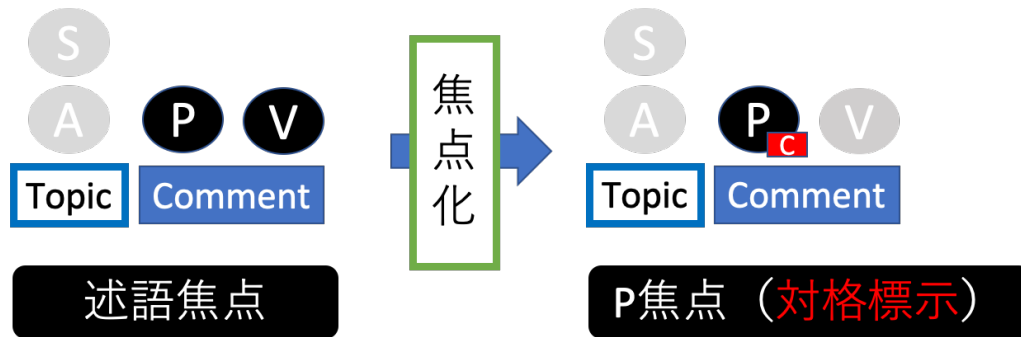


■ APV ■ [A]PV ■ [AP]V ■ A[P]V



■ SV ■ [S]V

Pに対するデフォルト予測： 焦点領域内，かつ非焦点（PV全体が焦点）



ここで問題にしている「どこに焦点があるか」（焦点ドメイン）と独立した問題として、「どんな焦点か」（焦点タイプ）がある。

Shimoji(2018) Contrastive Focus (対比焦点) > WHA Focus (WH応答) > WHQ Focus (WH)

出雲方言（平子2020）

【「太郎は湯飲みを割ったの？」に対して】

*iN.ja taroo=wa { sara=o / *sara } meeda=wa*

「いや、太郎は皿を割ったんだよ」

【「太郎は何を割ったの？」に対して】

*taroo=wa { sara=o / *sara } meeda=wa=ne*

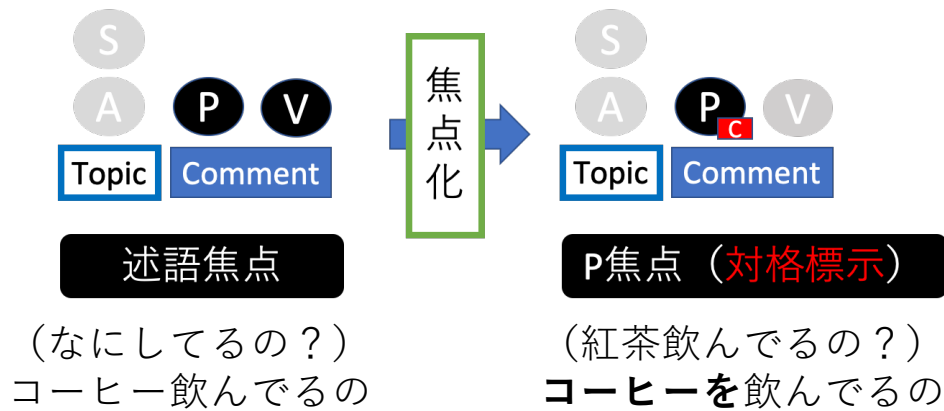
「太郎は、皿を割ったんだよ」

taroo=wa { naN=o / nani } meeda=ka=ne

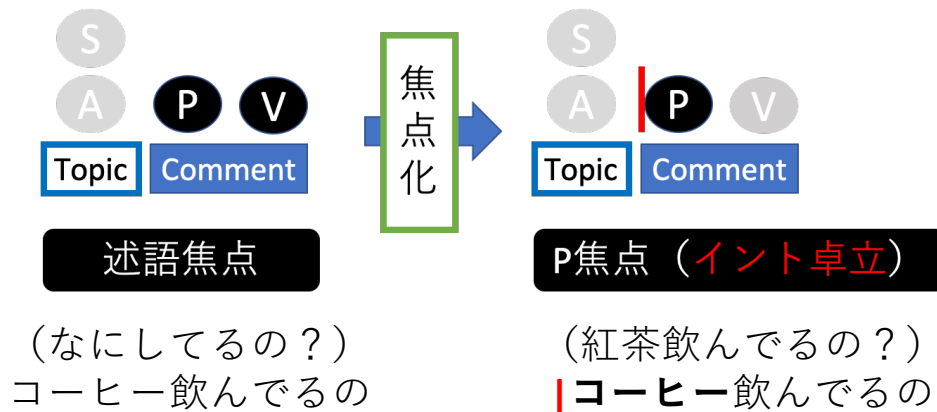
「太郎は何を割ったの？」

Shimoji(2018)	Contrastive Focus (对比焦点)	>	WHA Focus (WH応答)	>	WHQ Focus (WH)
出雲方言の 目的語標示	=o/* Φ		=o/* Φ		=o/ Φ

イントネーションと格標示の関連（竹内・松丸2019, 平子2020, 白岩2020など）は本科研の最重要課題の1つ



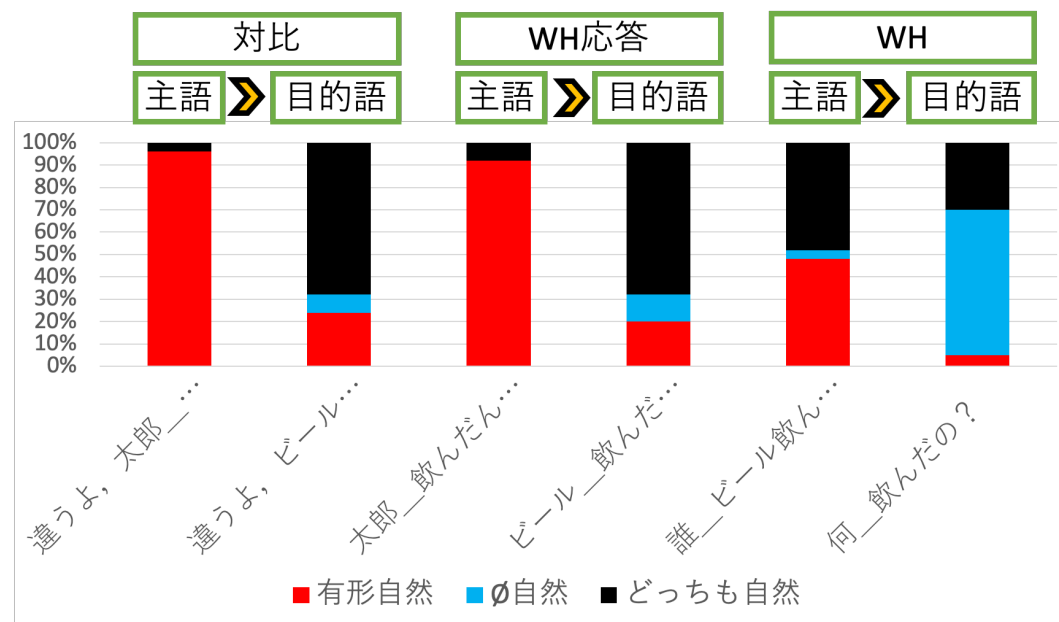
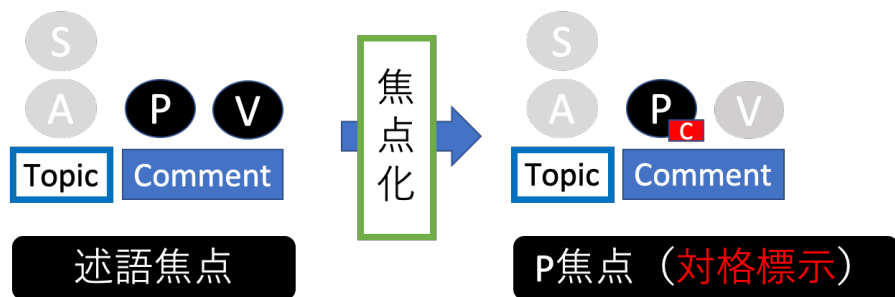
P焦点に格標示（対格はPと焦点の両方標示）



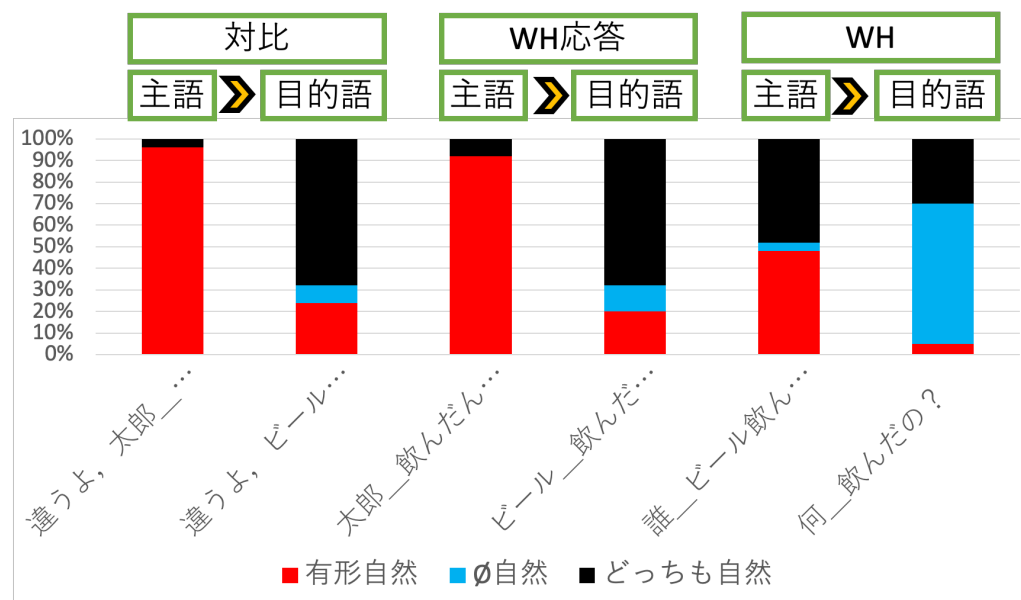
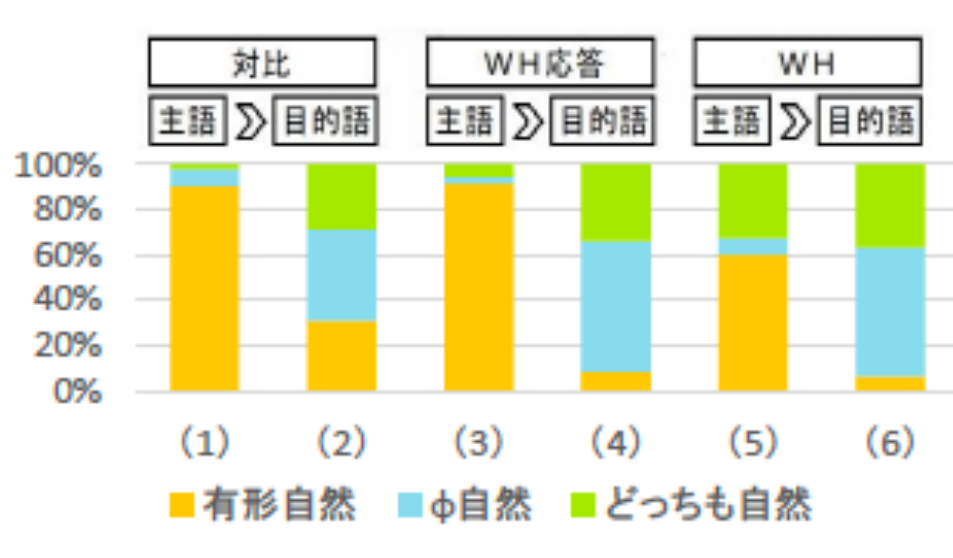
述語焦点とP焦点で異なるイントネーション句の作り方をする方言（対格は上記の方言よりは必須性が落ちるのでは？）

Pの格標示が有生性で使い分けられている方言なら、イントネーション句の作り方で区別するのが肝のはず

下地(2019)の標準語の調査： 焦点化Pは有形格標示を促しにくい



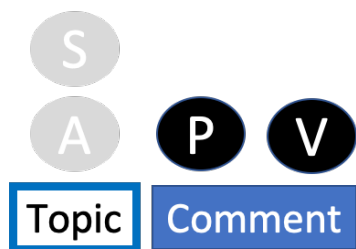
白岩(2020)の首都圏若年層の調査も同様の傾向。



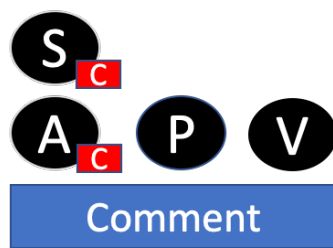
主題化とPの標示 (通時的な観点)

	典型例	動機	適したモデル
有生Pの格標示	東北	Aとの識別	AP識別モデル
V非隣接Pの格標示	全国	Aとの識別	AP識別モデル
格を使った焦点Pの標示	全国	期待される情報構造からの逸脱	【拡大】脱主題化モデル
主題Pの主題化 → 格標識へ	九州	期待される情報構造からの逸脱	【拡大】脱主題化モデル

脱主題化モデルとPの格標示



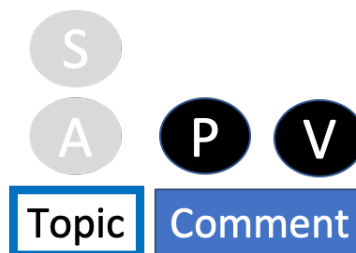
脱
主
題
化



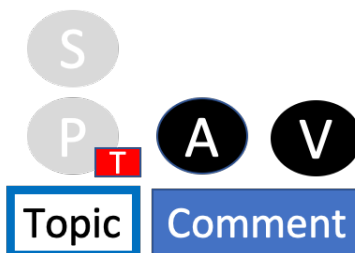
AS非主題
(主格標示)

「太郎くんいますか？」→
太郎 (は) 外で遊んでるよ
太郎 (は) ギター弾いてるよ

(ねえ見て!) 太郎が外で遊んでるよ
(ねえ見て!) 太郎がギター弾いてるよ



主
題
化

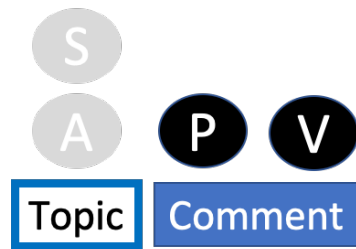


P主題
(主題標示)

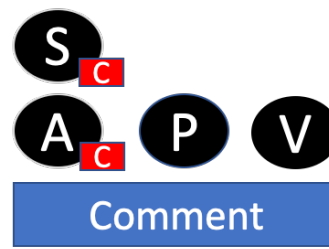
太郎 (は) 外で遊んでるよ
太郎 (は) ギター弾いてるよ

太郎 (は) 外で遊んでるよ
ギターは太郎が弾いてるよ

AS主題は無標（無助詞）優勢，
P主題は有標優勢（有形主題標示）という予測ができる。



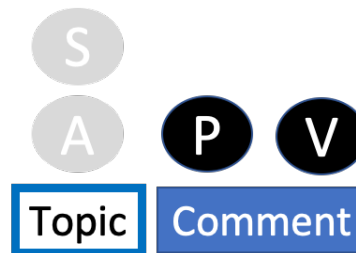
脱
主
題
化



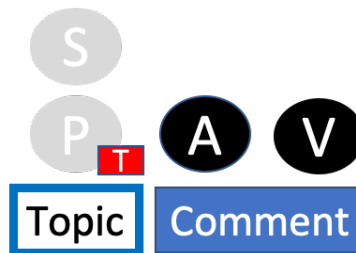
AS非主題
(主格標示)

太郎（は）外で遊んでるよ
太郎（は）ギター弾いてるよ

太郎が外で遊んでるよ
太郎がギター弾いてるよ



主
題
化



P主題
(主題標示)

太郎（は）外で遊んでるよ
太郎（は）ギター弾いてるよ

太郎（は）外で遊んでるよ
ギターは太郎が弾いてるよ

P主題は主題標識がつきやすい＝ 主題標識がつけばPだという解釈へ

- 波照間方言（麻生2020）

unu	midumu	unu	bidumu	kurahjan.
その	女	その	男	殺した

「その女はその男を殺した。」

unu	bidumu	unu	midumu	kurahjan.
その	男	その	女	殺した

「その男はその女を殺した。」

P主題は主題標識がつきやすい＝ 主題標識がつけばPだという解釈へ

- 波照間方言（麻生2020）

unu **midumu unu** **bidumu kurahjan.**
その 女 その 男 殺した

「その女_Aはその男_Pを殺した。」（デフォルト）

unu **midumu=ja** **unu** **bidumu(=ndu) kurahjan.**
その 女=TOP その 男(=FOC) 殺した

「その女_Pはその男_Aが殺した。」（主題標示あり）

麻生 (2020)の重要な指摘：TOPがつくと、
それがPだと解釈されやすくなり、語順が自由になる

P主題標識からP格標識へ： 通時変化の観点（下地印刷中）

bikidum=nu=du saba=u kurusii njaan

男=NOM=FOC サメ=ACC 殺して PRF

「男がサメを殺した」（伊良部）

saba=u=ba bikidum=nu=du kurusii njaan

サメ=ACC=TOP 男=NOM=FOC 殺して PRF

「サメは男が殺した」（伊良部）

P主題標識からP格標識へ（下地印刷中）

- 九州方言のba

sono **kantyo=(o)ba** **utikoryeeta=wai.**

その

鹿=ACC

撃ち殺した=ASR

「その鹿は撃ち殺したよ。」（宮崎県椎葉村）

P主題標識からP格標識へ（下地印刷中）

- 九州方言のba

otoko=wa **sisi=o** **utikoryeeta=kai?**

男=TOP イノシシ=ACC 撃ち殺した=Q

「男はイノシシを撃ち殺したの？」（宮崎県椎葉村）

otoko=wa **kantyoo=(o)ba** **utikoryeeta=wai.**

男=TOP 鹿=ACC 撃ち殺した=ASR

「男は鹿を撃ち殺したよ。」（宮崎県椎葉村）

対格標識の源流としての主題標識，というパターンの謎が解けるか？

おわりに

本発表の論点のまとめ

- 有標主格の問題を中心に
 - AP識別モデルに対する新しいモデル：脱主題化モデル
 - 脱主題化モデルは、情報構造を基盤にした有標主格の説明を試みる点で研究史的に独自性があり、説明力も高い。
 - 脱主題化モデルの今後の課題
 - Pの格標示の説明を視野に入れる（期待される情報構造からの逸脱、という観点で考える）
 - イントネーションも考察する（その意味で注目されるのは竹内・松丸2019, 平子2019, 白岩2020, etc.）

参照文献

- 麻生玲子. 2020. 「南琉球八重山語波照間方言の文法」東京外国語大学大学院博士論文.
- Comrie, Bernard. 1978. *Ergativity*. In Winfred P. Lehmann (ed.), *Syntactic typology*, 329–394. Hassocks (Sussex): The Harvester Press.
- Dixon, R.M.W. 1994. *Ergativity*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Greenberg, Joseph H. 1963. Some universals of grammar with particular reference to the order of meaningful elements. In Joseph H. Greenberg (ed.), *Universals of human language*, 58–90. Cambridge, MA: MIT Press.
- Handschuh, Corinna. 2014. *A typology of marked-S languages*. Berlin: Language Science Press.
- Heycock, Caroline. 1994. Focus Projection in Japanese. *North East Linguistic Society (NELS) 24*: 157–71.
- 日高水穂. 2000. 「秋田方言の文法」秋田県教育委員会編『秋田のことば』無明舎出版.
- 平子達也. 2019. 出雲方言の格と情報構造. 「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」令和2年度第1回研究発表会「格・情報構造（本土諸方言）」
- de Hoop, Helen & Andrej L. Malchukov. 2008. Case-marking strategies. *Linguistic Inquiry* 39(4): 565–587.
- 影山太郎. 1993. 『文法と語形成』東京：ひつじ書房
- 加藤幹治. 2017. 「徳之島伊仙方言の格体系」通言語的・類型論的観点からみた琉球諸語のケースマーキング 研究会発表資料.
- 風間伸次郎. 2015. 「日本語（話しことば）は従属部標示型の言語なのか？」『国立国語研究所論集』9. 51-80.
- König, Christa. 2006. Marked nominative in Africa. *Studies in Language* 30(4): 705–782.
- 小林隆. 2002. 「格助詞」大西拓一郎編（2002）『方言文法調査ガイドブック』（科研費報告書）
- 小西いずみ. 2020. 「富山県朝日町笹川方言の人称代名詞の体系」有標主格科研第2回公開研究会，2020年8月2日．オンライン.

参照文献

- 松田謙次郎. 2000. 「東京方言格助詞「を」の使用に関わる言語的諸要因の数量的検証」『国語学』第51巻1号.
- 松倉昂平. 2020 「福井県嶺北方言における目的語標示」「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」令和2年度第1回研究発表会「格・情報構造（本土諸方言）」
- 三上章. 1960. 『象ハ鼻ガ長イ—日本文法入門』くろしお出版.
- Miller, Amy. 2001. *A grammar of Jamul Tiipay*. Berlin, New York: Mouton de Gruyter.
- 宮岡大. 2019. 「愛媛県大洲方言の主格標示と対格標示—自然談話資料を中心に—」科研費基盤Bキックオフミーティング@九大.
- 佐々木冠(1998)「水海道方言の対格 --- 有生対格と無生対格の統語論 ---」『日本語科学』4. 99-121.
- 柴谷方良. 1978. 『日本語の分析：生成文法の方法』大修館書店.
- Shimoji, Michinori. 2008. *A grammar of Irabu, a Southern Ryukyuan language*. PhD thesis, Australian National University.
- 下地理則. 2015. 「琉球諸方言における有標主格と分裂自動詞性」『方言の研究』1.
- 下地理則. 2016 「南琉球与那国語の格配列」田窪行則・ホイットマンジョン・平子達也（編）『琉球諸語と古代日本語』東京：くろしお出版.
- Shimoji, Michinori. 2018a. Dialects. In Hasegawa, Yoko, ed., *Cambridge Handbook of Japanese Language and Linguistics*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Shimoji, Michinori. 2018b. Information structure, focus and Focus-Marking Hierarchies. *Gengo Kenkyu* 154: 88-122.
- 下地理則. 2019. 「現代日本共通語（口語）における主語の格標示と分裂自動詞性」竹内史郎・下地理則編『日本語の格標示と分裂自動詞性』1-36, 東京：くろしお出版.
- 下地理則. 印刷中. 「日本語の格標示：概観と類型化」木部暢子・竹内史郎・下地理則編『日本語の格表現』東京：くろしお出版. (academia.eduでダウンロード可能)
- 下地理則・松岡葵. 2019. 「有標主格性について」科研費基盤Bキックオフミーティング@九大.
- 白岩広行. 2020. 「多人数調査にみる首都圏若年層話者の主格・対格標示の一樣相」
- 竹内史郎・松丸真大. 2019. 「京都市方言における情報構造と文形態」竹内史郎・下地理則編『日本語の格標示と分裂自動詞性』1-36, 東京：くろしお出版.
- Tsutsui, Michio. 1984. *Particle Ellipses in Japanese*. Doctoral Dissertation, Department in Linguistics, University of Illinois at Urbana-Champaign.
- 横山（徳永）晶子. 2017. 「琉球沖永良部島国頭方言の文法」博士論文，一橋大学.